

平成27年10月28日

魚沼市議会議長 浅井守雄様

地域医療対策特別委員会

委員長 佐藤 肇

地域医療対策特別委員会調査報告書

本委員会は、付託事件について下記のとおり調査したので、魚沼市議会会議規則第110条の規定により報告します。

記

- 1 調査事件名 (1) 医療再編等の経過について  
(2) その他
  
- 2 調査の経過 10月28日に委員会を開催し、上記案件について調査を行った。  
医療再編等の経過等について、執行部から説明を受け、質疑を行った。  
その他で、南魚沼市民病院の診療科目及び医師等確保状況について報告を受け、質疑を行った。

## 地域医療対策特別委員会会議録

1 付議事件

(1) 医療再編の経過について

(2) その他

2 日 時 平成27年10月28日 午前10時

3 場 所 広神庁舎 3階 301会議室

4 出席委員 富永三千敏、佐藤敏雄、岡部計夫、渡辺一美、佐藤 肇、高野甲子雄、  
下村浩延、本田 篤、大屋角政、森山英敏、(浅井守雄議長)

5 欠席委員 なし

6 説明員 金澤健康課長、佐藤新病院対策室長

7 書 記 小幡議会事務局長、青柳書記

8 経 過

開 会 (9 : 57)

佐藤(肇)委員長 定足数に達していますので、ただいまから地域医療対策特別委員会を開会  
します。これより議事に入ります。

(1) 医療再編の経過について

佐藤(肇)委員長 日程第1、医療再編等の経過についてを議題とします。執行部に説明を求  
めます。

金澤健康課長 (資料「経過報告」「魚沼市立小出病院(1)入院 月ごとの延患者数及び病  
床稼働率(2)月ごとの延患者数」により説明)

佐藤(肇)委員長 ただいまの説明及び報告に対して質疑はありますか。

本田委員 外来患者について伺います。整形外科については大変混み合っていて新患も制限  
しなくてはならないという状況であると聞きましたが、その辺の対策については何か考え  
がありますか。

金澤健康課長 整形外科につきましては、基幹病院のほうも整形外科の患者が多くて9月ま  
でで、1,000件程度の手術があったと聞いております。基幹病院のほうも整形外科につい  
ては相当患者が多いというようなことで小出病院になかなか派遣をできる状況が続かな  
いということで小出病院のほうでも1名、整形外科の医師を招聘すべく、内定とまでは言

っていいのかわかりませんが、2月1日に稼働ができるように医師の招聘を進めています。

森山委員 入院病床の利用率が8月は96.2%ということで非常に効率よく運用されていると思うのですが、逆にこれだといっぱい過ぎて基幹病院からの受け入れが難しくなっているような気がするのですがいかがですか。

金澤健康課長 おっしゃるとおりです。基幹病院のほうも現在3病棟が閉まったままということですが。これは看護師の不足によって病床が開けないということで基幹病院としても来年度の看護師の採用を進めておりますが、現状では3つのうち1つ開くのがやっとというふうな状況で聞いています。圏域全体で看護師が不足しているという新聞報道等が数カ月前にあり、中条病院や津南病院、斉藤記念病院が病床を閉鎖させるというような報道もありました。圏域全体で看護師が不足しているということで地域振興局長も心配して、振興局として何かできることはないかということで先週会議をさせていただいて、看護師確保についても力を入れて協力していきたいというお話をいただきました。

森山委員 看護師不足がその時の要因というような話でした。私の記憶だとたしか11月から南魚沼市民病院がオープンするというような話だったと思うのですが、そうすると更に看護師不足というのが見込まれるということなんでしょうか。

金澤健康課長 南魚沼市民病院については、先週の情報交換の中で看護師の必要数は確保できるという見込みを話されていましたが、140床で開院するということです。ゆきぐに大和病院については40床を予定しているということです。基幹病院に対する紹介から逆紹介でこちらが受け入れるということですので、病床が圏域全体でも不足なのではないかという話をしています。

高野委員 小出病院の工事の進捗状況はどの程度になっていますか。玄関が遠くてという話を聞くんですが。

金澤健康課長 前々からこの場でもお話していることですが、西病棟の改修につきましては予定どおりということでことしじゅうに終わらせるということですし、それから1月には各種の検査が入ります。2月からは東病棟の患者を移した体制ができるのかなというふうに思います。解体工事につきましては今解体の設計、外構の設計ということで発注していますが、管理棟の解体につきましては県と協議等の遅れで、発注が11月12日を予定しています。そうすると降雪のあんばいもありますけれど、ことしじゅうに解体することが困難になるという見込みで今考えています。3月の降雪のぐあいもありますけれど、ある程度解体に入れれば、今の管理棟と診療棟の間の道10メートルくらいあるのですが、そこを使った中で西病棟を4月には通れるようにしたいと考えています。

高野委員 イメージ的に駐車場から新しくなる入り口の距離については今より大分近くなりますか。

金澤健康課長 これも前々から言っていますけれど、今、中を通して長い廊下を歩いているんですが、西病棟の玄関から入るといっても玄関からは建物の中に入れば近いような気がしますが、そこまで行く間というのはそう変わりはないという気はしますが若干は短くなります。

高野委員 心配なのは基幹病院も駐車場から入り口まで大分遠くて、特に雨や雪の時に車椅子の方が大変困っているという話を聞いていますので、対策が必要という気がしますが、どどのようにお考えですか。

金澤健康課長　これについても先週情報交換会の中で基幹病院に話を聞いてきました。基幹病院についてはゆきぐに大和病院の道を挟んですぐ前に広い駐車場があるんですが、11月からそちらのほうを使えるようにということで南魚沼市と調整をしているそうです。基本的には裏の駐車場は職員として、大分大きくなりますけれど、前の駐車場を患者さんから使っていただいて車椅子の方は玄関前まで来て患者を下ろして、駐車場に止めてということで裏側からは患者の出入りは想定しないと考えているようです。

渡辺委員　看護師不足による病床不足ということについてですが、視点を変えて質疑させていただきます。療養病床の看護師の設定数と老健施設の看護師の数、また特養の看護師の数ですが、法律で決まっている数というのはそれなりに少しずつ少なくなっていくのかということをお聞かせください。

金澤健康課長　老健にした場合は療養病床の看護師の約半分くらいだと思っています。特養については私の勉強不足ではっきりしたことを言えないのですが、だんだん少なくなっていくと思います。

渡辺委員　療養病床の半分が老健だということですか。

金澤健康課長　100床当たり9人という基準となっていますが、診療所併設老健にした場合それよりも基準を下げられるというのがありますけれど、あとは看護師の待遇改善という意味で若干増やすという部分がありますので、半分程度というふうには思っているのですが、これも公社の考え方ですので、はっきり何人という数字は申し上げられません。その減った部分を小出の療養病床を開設するにあたりそちらに回して、修学資金を借りている看護師でこたしに終わる方が3名いますので、そういった方にも面接をしながら足りない分を募集して充足させたいということです。

渡辺委員　堀之内病院の療養病床についてはなくなりますが、そのほとんどの数が小出病院のほうに移ってくるわけですね。そうすると、それほど看護師を減らせるかというの逆に関の一般病床の数と、老健になったときには今の数で足りない人よりも、多少足りなさが少なくなるということでしょうか。

金澤健康課長　今、堀之内病院に一般病床はありません。療養病床だけで16名ほどです。その中に診療所としても看護師が必要です。非常勤を含めて34名いますが、そうした中で老健になったとしても診療所併設老健ですので、診療所に必要な人数は必要です。そのほかに療養病床よりも半分程度の看護師が必要で、あとは介護員が少し増え運営していくと伺っています。

渡辺委員　堀之内病院の療養病床はなくなりますが、小出病院は44床で今の一般病棟にプラスしてということになるので、ますます足りなくなるということにはならないのでしょうか。

金澤健康課長　医療再編の計画の中で、小出病院については最初は90床それから来年44床増床して134床という計画があります。足りなくはなりますけれど、その部分は今の老健にすることによって看護師を回し、修学資金を貸し付けている方の面接をして採用する、足りない部分については新たに募集をするということで何とか充足をさせたいと考えています。

渡辺委員　今は老健になるということで、計画はそうなっているので、今後の考え方としては看護師不足になっていくというのはわかるのですが、老健にしても療養病床にしても、

本当にその療養型の所にいなければならない、あるいは老健でなければいけないというよりも、特養に本来なら入っていただきたい、行きたいという方々がいらっしゃるという中で、特養になれば当然看護師の数は少なくなっていくということもあるかと思うのですが、そのあたりの考え方をもう少し精査していく必要があると私は考えるのですが、その辺りは課長、あるいは市としてはどのようにお考えですか。

金澤健康課長　　特養につきましては私というより福祉課なんですけど、今の6期の介護保険計画の中で特養の予定はありません。ここ3年という中ではありません。変更もあるのかもしれないんですけど、ほかの先生なんかも言われてますけれど、特養があればいいという話はしていますので、私ども市としましては国が今2025年ということを行っています、魚沼市は10年先を行っているのそのことを考えると、真剣に考えていかなければならないと思います。

岡部委員　　先週末の新聞によると研修医とかも新潟県に増えてきているという報道もあったわけですが、先ほど整形外科が足りないとかあったんですけど、当初計画した医師の数と今現在どの科が増え、医師が増えたとか、そういう中でどの科がどれだけ不足しているとか医師の確保についての現状と、どのような形でそれをカバーしているかわかったら教えてください。

金澤健康課長　　小出病院に関しては現在も常勤7名ということです。堀之内病院1名、守門診療所1名ということでやっていますが、あと開設許可に必要な部分を補うために基幹病院から来ていただいたり、ほかから来ていただいたりということでやっています。最初の計画では15人という数字が出ていましたが、それに近づけるべくということで議会でも話をさせていただきましたけれど、この地域は医師不足でなかなか集まらないというのが今の状況です。小出病院1名、堀之内の院長が1名、今年度いっぱい離れられるということが決まっているというか、そういう話で今進めています。その代わりに整形外科の医師を1名、内科医師を1名と希望的に見えています。その他に阿賀町、魚沼市、県と修学資金を出している義務年限がある研修医がいます、来年招聘ができればということで、阿賀町に出向いてお願いもしてきましたし、今後2月ごろには決まると思っています。そのほかにも話はありますので的確に進めていきたいと思っています。

本田委員　　開院して5カ月という中で医師からの反響があるということで保健医療福祉の中核としての、とりあえずの存在意義は果たせたのかなという感想ですが、今後より重視されてくるのが、いわゆるヘルスプロモーションと申しますか、市民に対する直接的な健康増進活動の面だと思います。これは市と協同でやっていかなければならないと思うのですが、その辺の具体的な話は市のほうとしていますでしょうか。現在の進捗状況をお聞かせ願いたいのですが。

金澤健康課長　　市のほうで策定を進めている健康づくり計画、これもあわせて小出病院の2階には地域医療魚沼学校を開設して講堂も持っています。布施先生のほうも時間をみてナイトスクールや学校に出向いたりという活動を23年から続けています。これはやっぱり目玉として研修医の方も受け入れながら、井口清太郎教授の教室も小出病院に拠点を置きながらということでやっていますので、地域医療魚沼学校を使った中で市民に健康づくりを啓発していきたいということで考えています。

本田委員　　市の職員、保健師についてのことなんですけど、当然包括だとか、将来的には保健

センター的な構想もあると思うのですが、その辺の連携というのは今の時点では行っていませんでしょうか。

金澤健康課長 地域医療魚沼学校のほうで、医療、介護を含めた中で、多職種連携ということで毎回夜講演をしたり勉強会をするというようなことを続けています。そういったことが徐々に根づいて成果をあげているのかなというふうに思います。

本田委員 電子カルテのことですが、開院直後に大分混乱があったということですが、今は大丈夫ですか。

金澤健康課長 開院直後よりは大分スタッフの方もなれてきたということですが、まだまだ大変な面はあるようです。

佐藤(肇)委員長 ほかに質疑はありませんか。(なし) 日程第1については以上とします。

## (2) その他

佐藤(肇)委員長 日程第2、その他を議題とします。委員の皆さんの中でご意見、協議事項等ありませんか。

大屋委員 魚沼市の医療再編とはまた少し違うことから話をさせていただきますが、11月から南魚沼市の病院が開院となって診療科目もかなり多いようです。ゆきぐに大和病院にも精神科が入ってきたりしているのですが、そういった状況がわかりましたら教えてください。

金澤健康課長 ホームページ上と意見交換の中での話しかわからないのですが、ゆきぐに大和病院の診療科については今の状況に比べるとずっと減るということで内科、外科や精神科も含まれています。病床については40床、これは一般病床です。それから南魚沼市民病院につきましては診療科目25科、病床数が140床ということで手術室も幾つかあるという話です。詳しい内容についてはホームページに出ていますが、それ以上のことは私どもではよくわかりません。

大屋委員 先ほどの話の中では南の医師、看護師は大体見つけられているという話だったのですが、それは基幹病院との関係の派遣とかそういったものですか。それとも独自で医師等を確保したのでしょうか。

金澤健康課長 医師については南魚沼市がゆきぐに大和を中心とした医師確保がありましたので、そのつながりで医師を確保していくということですし、看護師につきましては城内病院を診療所に変えて病床を少なくしたという形がありまして、看護師はそういうところから補っています。基幹病院というよりも県からの派遣ということで県立六日町病院におられた方々とか希望される方が県からの派遣ということになります。

大屋委員 県とかゆきぐに大和病院の関係で医師確保しているわけですが、そういう点で魚沼市を見た場合になかなか充足がされていないと、何か参考にして取り組めるようなことがないのでしょうか。

金澤健康課長 私どものほうは堀之内病院時代は富山大学とつながりもあったようですが、市になってからは向こうの事情もあるのでしょうか。それもだんだんなくなってきています。小出病院としては県から医師を派遣していただいて、直接大学からということではありませんので、大学のほうとの連携を強めながら医師の派遣のほうにもご協力してい

ただくということで地域医療魚沼学校をつくったり、井口清太郎先生の教室を応援していくというふうなことで将来的な医師確保を目指したいと思います。

大屋委員　そこでかなめになるのは、実際にそういった関係を築くのは行政側なのか、公社の医師会なのか、どちらが主にならなければならないのでしょうか。

金澤健康課長　それはやはり両輪だと考えています。公社だけでもだめでしょうし、行政だけでもだめですので、お互いに協力し合って魚沼市の今後の医師確保に力を入れていくということだと思います。

大屋委員　車の両輪だということなので、行政としても積極的に医師会、公社のほうとも話をしていただいて、充足できるように頑張ってください。

森山委員　地域医療の核としての魚沼基幹病院ができて4カ月が経ったということですが、できれば委員会として1回くらい視察ができないのか、できれば視察した中でいろいろと開院当時あった食堂が閉鎖したとか、看護師不足だとか、ある意味で理想的な形になっていないというような状況ですので、委員会として現地調査を含めてそういったことをやる考えはありませんか。

佐藤(肇)委員長　しばらくの間、休憩します。

休　憩（10：23）

休憩中に懇談的に意見交換

再　開（10：31）

佐藤(肇)委員長　休憩前に引き続き会議を再開します。休憩中に各委員からご意見をいただきました。それに沿ったような形で相手があることですので事務方を通じて調整させていただきたいと思います。ほかにご意見、協議事項等はありませんか。（なし）なければ、日程第2、その他を終わります。本日の会議録の調製については、委員長に一任願います。本日の地域医療対策特別委員会はこれで閉会します。

閉　会（10：38）